

教科等研究会（小学校道德部会） 令和2年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深めるための
多様な指導方法と評価の工夫

2 研究経過

第1回			第2回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者
7月14日	27名	龍野小学校	11月10日	矢部小学校	堀田星子教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

小学校新学習指導要領における道德科の目標から、児童一人一人が道德的価値を自覚し、自己の生き方についての考え方を深め、道德性を養っていけるような道德科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道德的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる」「楽しい」道德の授業につながると考えた。

◎「分かる」道德の授業とは・・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道德的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道德的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道德的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道德的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎「楽しい」道德の授業とは・・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道德的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説特別の教科 道德編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫し生かすようにした。

◇道德の時間に生かす7つの指導方法の工夫

- ① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペーパーサート等）、ビデオ映像等
- ② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
- ③ 話し合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
- ④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
- ⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
- ⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
- ⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容等

(2) 成果と課題

【成果】

- 事前研で資料分析を行い発問について協議し、会員による先行授業を行った。授業の流れや児童の反応について情報交換を行うことで、学習構想案を練り上げることができた。
- 資料提示の際、動画やペーパーサート、吹き出し等の視覚的な工夫をすることで、児童の教材理解を促すことができた。
- 第2回道德部会は、小中合同で行い、今年度は中学校の先生方に小学校の授業を参観していただいた。授業研究会では、小中交えて班編成を行い、情報交換を行うことができた。「小学校での学びを中学校でも続け、道德が好きという児童・生徒を共に育てたい」という感想があった。今後も、小中合同部会を継続していきたい。

- 講話を通して、道徳科における評価の在り方や授業改善の視点について学ぶことができた。「熊本の学び」における道徳科の学習構想案について、今後検討していきたい。

【課題】

- 個人の考えを学級全体で共有し、多面的・多角的に考えるための発問の在り方や学習シートの工夫について。自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるための手立て等について、今後も研究していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

主題名 だめなことはだめだよ（善悪の判断、自律、自由と責任 A-1）

教材名 「にんじんばたけで」 出典「生きる力」（日文）

指導者 教諭 堀田 星子

本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

- ・導入では、児童のアンケート結果を提示し、自分たちの生活を想起させるとともに、課題意識を明確に持てるようにする。
- ・教材文を読む前に、自分の好きな食べ物を想起させ、うさぎの好きな実物のにんじんを見せることで、登場人物の気持ちに共感しやすくする。
- ・登場人物の表情や言動を動作化させることで、登場人物の気持ちに自分を重ねて考えさせる。
- ・役割演技を児童と教師で行い、教師から意図的発問をすることで、道徳的価値のよさを児童がより実感できるようにする。
- ・終末で、導入で提示したアンケート結果に再度触れることで、自分の生活を振り返らせ、今後の実践力につなげる。

(2) 学習構想案

第1学年2組 道徳科 学習構想案

日時 令和2年11月10日（火）第5校時

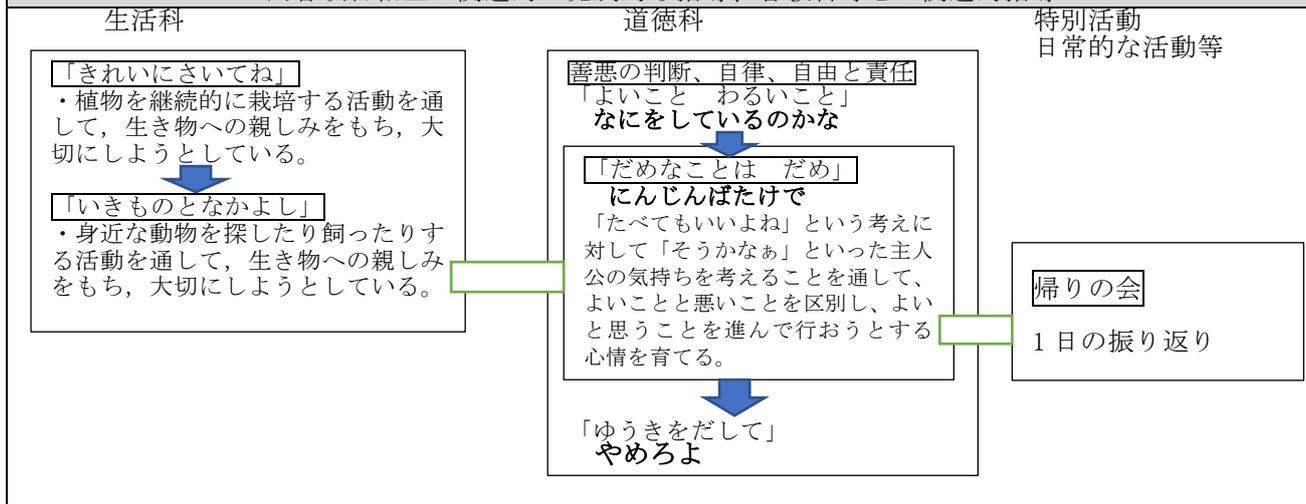
場所 1年2組教室

指導者 山都町立矢部小学校 教諭 堀田 星子

1 主題についての構想

主題名	だめなことはだめだよ（内容項目 A(2) 善悪判断、自律、自由と責任	
ねらいと教材名	(1) ねらい 「たべてもいいよね」という考えに対して「そうかなあ」といったぴよんちゃんの気持ちを考えることを通して、よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。 (2) 教材名 「にんじんばたけで」 出典「生きるちから1」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	○「みんなもたべているのだから、たべてもいいよね」という考えに対して、「そうかなあ」と返すぴよんちゃんの気持ちを自分なりに考えている。	○今までの自分を振り返り、これからの生活で、正しいことを進んでしようとする態度を考えようとしている。
目指す児童の姿		
よいこととわるいことをよく考えて、よいことを進んで行おうとする児童		
主題に迫る学習課題（本時）		本主題ではたらかせる見方・考え方
していいこととだめなことを、どんな心をもって判断したらいいのか。		登場人物に共感したり、自分と重ねて考えたりしながら、友達の考えに触れることで、自分の生活について見つめ直し考えていくこと。

内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等との関連的指導



学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、低学年のうちから徹底して身につけていくべきものである。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こせるなどして、進んでよいことを行うことができる意欲と態度を育むことが大切である。

日常生活の中では、客観的な立場にあるときには、落ち着いて正しく判断できても、当事者として問題場面に会おうと、「みんなもしているから」と自分の都合のよい考えで判断してしまうことがある。そこで、本主題では、人としてよいこと、正しいことは何かということ判断の中心に置き、よいこと、正しいことを進んで実行する心情を育みたい。

本主題における系統

<p>小学校第1学年及び2学年 内容項目 A-(1) (善悪の判断、自律、自由と責任) (1年) 「だめなことはだめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にんじんばたけで <p>(2年)</p> <p>「してはいけないこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わりこみ 「正しいと思うことを」 ・ある日のくつばこ 	<p>小学校第3学年及び4学年 内容項目 A-(1) (善悪の判断、自律、自由と責任) (3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やっぱりやめよう」 ・たからさがし 「正しいと思うことを」 ・ダブルブックング <p>(4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きっぱりことわる」 ・さち子のえがお 「正しい勇気をもって」 ・遠足の朝 	<p>小学校第5学年及び6学年 内容項目 A-(1) (善悪の判断、自律、自由と責任) (5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本当の自由」 ・うばわれた 自由 「自由と責任」 ・ぼくたちの夏休み自由研究 <p>(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自由と責任」 ・ほんとうのことだけど 「ほんとうの自由」 ・自由行動
--	---	--

児童の実態（男子9名、女子10名、計19名）

本学級の児童は、入学当初から学んできた学校のきまりを守らなければいけないと分かっている。きまりが守れないときに話し合いをすると、「けがするから走ってはだめ」「友達とぶつかるかもしれないから教室で遊んだらだめ」などという意見があり、どうしてきまりがあるのかも理解している。よいことを進んで行おうとする姿も多く見られるが、一方で、目先の事や自分の事だけを考えて、行動してしまい、ケガをしたり、迷惑をかけたりしてしまう事もある。

児童にアンケートをとったところ、してはいけないことをしたことがあると答えた児童は、19人中10人だった。内容は、「廊下で遊んだ」「廊下を走った」「道路を走った」というような学校でのきまりを破ったことや、「独り占めして、おやつを食べた」「2つまでときまりがあったのに、3つ食べた」など、家での約束を破ったことがあった。理由としては、「友達がしていたから」「(廊下で)友達と遊びたかったから」「面白かったから」「急いでいたから」などが多く挙げられた。ここから、してはいけないことと分かっている、自分の都合に合わせて、正しくない行動をとってしまうことがある児童がいることが分かった。一方で、してはいけないことをしたことがないと答えた児童も半数おり、その中には自分の生活をしっかり見つめられていない児童もいることが分かった。教材の中の人物に自分を重ね、自分の中にも、迷いがあり、正しい判断ができないことがあることや、いつも自分で考えて、正しい判断ができている自分のがんばり・すがすがしさに気付かせたい。

教材の価値

本教材で、うさぎたちの「畑に入っはいけない」「いや、でもみんなもやっているから」という心の揺れから、人間には、本当は悪いことをだと分かっている、でも「みんながやっているから自分もよい」と都合のよいように考えてしまう弱さがあることに気付かせたい。また、最後には、「たべちゃだめだね」と判断し、うさぎたちが元気に野原を走って行く様子から、自分でだめなことはだめだと判断することの大切さや、正しいことをすることの気持ちよさに気付かせ、間違ったことをしない強い気持ちを持ち、正しいことを実行しようとする心情を育みたい。

3 指導に当たっての留意点

- 本時のねらいにそって学習を進められるように、導入において、アンケートから分かった児童の課題を整理したあとに、それに向けた学習テーマを示す。
- おいしそうなにんじんを見つけた場面や、3人で顔を見合っている場面では、3匹の表情や言動を動作化させながら、共感させる。
- 役割演技の際には、児童がびよんちゃん役、教師がしろちゃん役で「みんなもたべているのだから、ぼくたちだって食べてもいいよね？」と意図的発問をすることで、本時の道徳的価値のよさを言語化させる。
- 終末では、導入でのアンケートに触れ、自分の生活を振り返らせる。してはいけないと分かってもしてしまったときの後悔の気持ちや、正しいことを進んでできたときの気持ちを振り返らせたり、説話として、よいと思うことも進んで行っている様子を伝えたりすることで、今後の実践力につなげる。
- 児童の表情や活動の様子に応じて補助発問や個別の支援を行ったり、ペア活動を設けたりすることで、どの児童も本時のねらいが達成できるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

「たべてもいいよね」という考えに対して「そうかなあ」といったびよんちゃんの気持ちを考えることを通して、よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◆主な発問・指示 ◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 だめだと分かっているけど、間違っただけで済んだ経験について紹介する。</p> <p>◆アンケート結果を見てみましょう。</p> <p>◇ろうかを走ってしまう人がおおいね。</p> <p>◇分かっているけど、だめなことをしてしまうことがあるね。</p>	<p>○アンケート結果を紹介し、してはいけないと分かっているけど、「友達もしているから」と間違っただけで済んだ経験をしてしまうことがあることに気付かせ、ねらいとする価値への方向付けをする。</p> 
展開	32分	<p>2 教材「にんじんばたけで」を読んで考え、話し合う。</p> <p>◆にんじん畑を見つけたとき、3匹はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◇おいしそう。◇みんなで食べようよ。</p> <p>◆にんじんのたべかすを見つけたとき、3匹はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◇他の人も食べているから、自分たちも食べてもいいよ。</p>	<p>○自分の好きな食べ物とうさぎの好きなにんじんを重ね、登場人物のうさぎたちに共感しやすくさせる。</p> <p>○動画で、前半の話の話を聞かせた後、3匹の言動を板書で整理する。</p> <p>○3匹の表情や言動を動作化して、3匹の「食べたい!」という思いに共感させる。</p> <p>○書くことが難しい児童には、ペーパーサートでびよんちゃん役をさせて、一緒に言語化し、書くようにする。</p> <p>○発表する際には、児童がびよんちゃん役、教師がしろちゃん役を演じて、本時の道徳的価値のよさを言語化する。</p> <p>○話の続きを聞かせ、3匹の姿から、してはいけないことを判断し、行動すると気持ちがすずすずしくなることに触れる。</p> 
終末	8分	<p>3 自分の生活を振り返り、感想を書く。</p> <p>◆これまでの自分を振り返ったり、これからの自分を考えたりしましょう。</p>	<p>○できなかったことだけでなく、正しいことをできている姿も紹介し、自己肯定感を高め、正しいことを進んでしようとする意欲に繋げる。</p>